

〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和7年度地域でつながる家庭教育応援事業 家庭教育応援プロジェクト 第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議

日 時：令和7年7月18日（金）13:30～15:45

会 場：南相馬合同庁舎401会議室

参加人数：構成員 20名 事務局 3名

ねらい 相双域内の社会教育関係者やPTA関係者等による家庭教育の推進や地域教育力の向上を図るため、家庭教育及び地域教育の課題やその解決の方策を協議する。

- 1 開 会（13:30）
- 2 事業説明（13:40～14:00）
 - （1）令和6年度相双ブロック会議の概要（事務局）
 - （2）令和7年度相双ブロック会議の基本方針（事務局）
- 3 双葉警察署からのお話（14:05～14:25）
「子どもたちを取り巻く環境（浜通り地区の実状と課題）」
- 4 協 議（14:30～15:40）

○ 家庭教育の現状と課題を踏まえた今後の取組について「子どもの未来をはぐくむ家庭教育3つの提言」の中から「メディアとの付き合い方」について、それぞれの立場で出来ることを考え実践につなげる。

- 5 閉 会（15:40）



【協議内容】「メディアとの付き合い方について」

「課題：デジタル社会になってきた反面、家庭で困っていること」について話し合い、その解決の手立て（相双地区で取り組みそうなことや素敵な事例、これから実践できそうなこと）を考えた。

全体で意見交換しながら、共有を図った。

◎班ごとに分かれて、課題とそれに対する取組（実践例）を挙げた。

A 班

【課題】

「携帯などの使用料金、言葉遣い、発達などへの影響、メディア依存、不登校、コミュニケーション不足」

【取組・実践例】

- 携帯料金の問題は、子どものお小遣いから使用料金を賄（まかな）い、オーバーした場合は、使用を制限する。
- 言葉遣いについては、道徳の授業に関連づけて教える必要がある。
- 発達障害に関しては、親向けの教育機会が重要である。
- メディア依存を防ぐための親と子どもの交流を促進する場所を創設する。
- 教員に対しては、タブレットを使った授業のトレーニングを行う。
- コミュニケーション不足に対しては、家庭での時間を増やすようにする。

B 班

【課題】

「感情表現や家庭内の交流が少なくなっている。」
「子どもたちの理解不足、言葉の発達などへの影響、困りごとが増えている。」

【取組・実践例】

- コミュニケーションの重要性から、文化やスポーツイベントを通じての交流を推奨し、親の気づきを促す講演会などを開催する。
- 言葉遊びなどのアプリを作成する。
- 講演会など、機会があることに積極的に参加し、話を聞く。



C班

【課題】

「スマートフォンによる家庭内の問題。例えば会話やコミュニケーション不足、課金の手軽さ、時間管理の難しさを挙げる。また、視力の低下を問題にする。」



【取組・実践例】

- 食事の時は一緒に過ごすルールを設ける。
- ながら視聴をさせない、しない様。
- 親が強い気持ちで管理する。
- 出前講座の実施。
- アウトメディア week
家庭でもメディア利用について考える。
- 体験や外遊びの機会を増やすことや、経済観念を育てるイベントなどを行う。
- 地域の人たちとの交流・居場所づくり（遊び場・地域食堂など）
- スマートフォンなどを使う（親が見守る。親の目が届くように）場所を決めておく。

D班

【課題】

「家庭内のルールがそれぞれ異なるため、温度差があり、親の判断が大きい。」
「各家庭で意識やルールが異なるため、偏りが生じている。」
「危険や不安を引き起こすリスクがある。」
「読書の時間が減っている。また、字を読むことや書く機会が減少している。」



【取組・実践例】

- 保護者の理解不足もあるので、親子講座を実施してはどうか。
- 依存している時間の解消に向けて、親子でルール作りをする。その機会を設ける。
- ゲームの長時間使用による影響や読書時間の減少も憂慮され、学校での講座や家庭間の連携が必要である。
- 相談窓口の設置、活用。（サポートの仕組み）
- 体験や機会の創出。話し合いの場づくり。

E班

【課題】

「携帯などの使用料金、言葉遣い、発達などへの影響、メディア依存、不登校、コミュニケーション不足」



【取組・実践例】

- 家族全体でルールを作ることや自分の行動を考える機会を増やす。
- 社会全体でのサポート体制の必要性を考える。
- メディアチャレンジ（学校での取組）の継続。
大人も子どもも使用する時間を決める。
- 大人（親）の管理 ○ 大人（親）の勉強会
- 外遊びに誘い出す。

＜座長からの総括＞

メディアについて、それぞれ個人によって、違った解釈をしている。子どもたちへ与えるメディアの影響は、単に悪いことばかりでない。子どもたちに正しい使い方を伝えることは、大人にもその責任があるということを知って欲しい。メディアの問題を解決するためには、大人が、子どもたちと同じ目線に立って、どのようなことを実践していくかを考え直す必要がある。メディアに対して批判だけで終わるのではなく、その指導方法と意識の変革を感じて欲しい。子どもたちの未来を考え、私たち大人がどのように変わるべきか、またその価値をどう伝えていくべきかを知ってほしい。

【子どもの未来を育むための 地域家庭教育推進相双

第1回ブロック会議を終えて】

各班から出された課題に対して、その解決策（実践案）を右の表にまとめてみました。第2回の会議では、実践案や取組をやってみてどうだったか、検証いたします。

携帯電話や情報機器は、大変便利で、私たちの生活を豊かにしてくれます。デジタル化社会が進み、デジタル技術の活用によって私たちの生活も大変便利になりました。

これからも、子どもからお年寄りまで上手な使い方が求められています。できることから始めてみましょう！

子どもの未来を育む家庭教育3つの提言より

「メディアとの付き合い方」取組実践案



R7. 第1回ブロック会議 ・各班から出された課題

・これから取り組めそうなこと

☆デジタル社会になってきた反面、家庭で困っていることは？

- ・スマートフォンによる家庭内問題の深刻化
- ・情報機器に依存している時間が長い
- ・家族の会話やコミュニケーション不足
- ・言葉の発達などの遅れ ・言葉遣い
- ・感情表現が上手くいかない ・落ち着きがない
- ・発達に影響を及ぼすこともある ・睡眠不足
- ・子どもの認識不足 ・困りごとの増加
- ・携帯の料金 ・課金の手軽さ
- ・無気力無関心 ・不登校
- ・親自身が機器操作について、疎くなってきた
- ・犯罪にも巻き込まれる事案の発生
- ・視力や体力の低下 ・肥満の問題
- ・各家庭で意識やルールが異なるため、偏りが生じている。

実践案（この他の取組もOKです！）

- (1) 親子でルール作りをする。その機会を設ける。
(子どもの意見を尊重する)
- (2) 使用する時間を大人も子供と一緒に考える。 (メディアチャレンジ)
- (3) 大人と子の交流を促進する。
- (4) 家族での食事を心がける。
- (5) 買い与える・使用させることは、
大人の責任！
- (6) 体験や遊び場の機会を創出する。
- (7) 学校や関係機関との連携を図る。
- (8) 親の子育て支援、親子講座の実施
- (9) 外遊びの奨励

自分たちだけで頑張るのではなく、支援者同士、自治体、事業所、各部局等が**つながり合い・助け合い・みんなで実践し、効果的なことは共有していきましょう！** できることから少しずつ始めましょう。

